

宇都宮市立清原北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ねらいの提示と学習の振り返りを徹底した授業づくり	・日々の授業を大切に、ねらいの提示と振り返り活動を行う。	・4・5年生では、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問の肯定回答割合は、共に県・市の平均よりも高く、ねらいについては100%だった。 ・「学習をしていて、いろいろなことが分かったりできるようになったりすることはうれしい」に肯定回答した児童の割合は、2～4年では100%、その他の学年でも85～95%だった。 ・ねらいを明確にし、振り返りを行うことで、自分の学びを肯定的に捉え、次の学習への意欲をもって、授業に取り組んでいるといえる。
基礎的基本的な学習内容の定着のための取組	・単元によって習熟度別学習を取り入れる。レディネステストにおいて定着が十分でないときは、既習事項の復習を行う。 ・朝の学習の時間を活用し、漢字・計算などのドリル学習等を行うことにより、基礎基本の定着を図る。また、宿題の内容を工夫し、漢字の読み書き・計算、音読を毎日継続して練習できるようにする。	・3年生以上において「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問に肯定回答をした児童の割合は90%を上回った。 ・「勉強が好きですか」という質問の肯定割合は、複数の学年において市の平均を下回った。平均を上回った学年では、「自分から進んで勉強していますか」の肯定割合も高かった。 ・夏休み明けから朝の学習の時間を新設したことにより、漢字や計算など、基礎基本の着実な定着が見られ、意欲につながった。引き続き朝の学習の時間を発展拡充させていく。
要点を捉え、自分の言葉でまとめる力の向上への取組	・中学年から、時数制限や短い言葉で要点をまとめるなどの機会を作る。	・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」の質問への肯定割合は、学年によって差があるものの、市の平均をやや下回っている。 ・6年生において、国語では、条件を意識して書くことや100字程度の短作文を書くことができるようになった。算数でも、自分の考えや理由を述べることができるようになってきたが、無回答の児童もいるなど個人差が大きい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学期末に「パワーアップウィーク」を設け、複数単元の内容をまとめた復習を行い、既習の学習内容の定着を図る。また、朝の学習等においても、既習学年の学習内容の復習を行う。

・全ての児童に分かる授業展開を行うため、子どもの興味関心を高める課題の提示をしたり、だれにでも分かる教材の工夫をしたり、ペア学習・グループ学習など学習形態を工夫したりすることで、学び合いを促進し深い学びになるよう授業改善を図る。

・様々な教育活動において、自分の思いや考えを100～200字程度の日記や作文、手紙に取り組む時間を設けることにより、文章を書くことを通して表現する力を育てる。

・自分で計画を立てて家庭学習に取り組めるような宿題の出し方や内容の工夫をし、家庭学習の充実と習慣化に向けた指導を工夫改善していく。